

もっと、知りたい。TOKIWAのコト。

学校法人常磐大学 広報誌
TOKIWA POST [トポス]

TOPS

vol.
99

February.2025

- ▶ 特集
ICT マーケティング
プロジェクト
- ▶ 探究学習
高校・智学館の探究学習での
学びについて紹介
- ▶ News & Topics
大学・短期大学、高校、智学館、
幼稚園のニュースを紹介
- ▶ Toki no Sho / トキノショ
大学・短期大学の教員が執筆した
著書を紹介
- ▶ Toki no Michi / トキノミチ
卒業目録インタビュー

デジタル
マーケティングICT
マーケティング
プロジェクト

産官学が連携し地域社会で活躍する
デジタル人材育成を目指す
共同事業の紹介

【協力企業】有限会社ぬりや「蒲焼割烹ぬりや・MitoBrewing大工町醸造所」、萩谷いちご園
【産官学連携体制】株式会社アプリシエイト、水戸商工会議所、水戸市、常磐大学

Photo



- ①プロジェクトに参加している学生と奥野准教授
- ②萩谷いちご園の萩谷様に取材調査を行う学生たち
- ③有限会社ぬりや「蒲焼割烹ぬりや・MitoBrewing大工町醸造所」との打合せ
- ④マッシュケトルに粉碎した麦芽を仕込む学生
- ⑤販売実習およびアンケート調査実習

「ICTマーケティングプロジェクト」とは？

携帯電話をはじめとする通信回線の高速度、ものとインターネットがつながるIoT、ビッグデータの活用、人工知能（AI）による自動化など、デジタル化を支える技術は進歩し、私たちは日常生活の中で、あらゆる情報通信技術（ICT）の恩恵を受け、無意識のうちにICTを利用しています。こうした中、顧客接点の複雑化やコミュニケーション手法の多様化で、ICTを活用したマーケティングがより重要になっており、今後は企業規模問わずあらゆる場所でデジタルスキルがベースとなり、地方企業や自治体でもマーケティングスキルが必要とされます。このような状況に対応すべく、2023年から経営学科の必修科目である「ビジネス専門演習」において新設されたのがICTマーケティングクラス。ここでの取り組みがICTマーケティングプロジェクトです。

デジタル人材の必要性

茨城県内において地域人口が減少することは、国立社会保障・人口問題研究所の調査などで明らかです。特に性別・国籍・世代を超えたダイバーシティを取り入れた企業経営の推進や、中心市街地への来訪者や観光客に対して情報共有できる環境を整えていく必要があります。このような状況下、デジタル時代と呼ばれる今、企業を取り巻く環境も大きく変化しています。

ビジネスの現場では、常に正解のない課題に向き合い、組織課題を解決していかなければなりません。そこで、デジタルやマーケティングの知識活用が必要になるのです。新しいビジネス価値や今のビジネスのあり方を見直すことで、次のビジネス成長に向けた戦略を考え、企業の中で実行していくこと。そうして企業や自治体職員などの中核人材として、地域社会と関わっていける人材、地域活性化に向けて関わっていける人材が、今必要とされているのです。



企画提案

新商品開発・販売

実務家教員

企業や官公庁での実務経験を生かし、大学などの高等教育機関で教育や研究に従事する教員です。グローバル化と知識経済が到来する現代において、実社会の知識と経験を学生に伝え、学び続ける社会の推進者として期待されています。

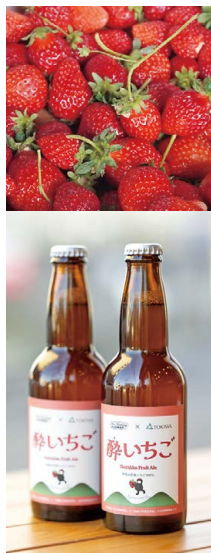
産学連携協定に基づき「ICTマーケティング」「ビジネスICT演習」がスタート

私には企業の中で人材育成に関わる機会がありました。これまでに、社会人向けに「企業研修」「資格取得講座」、大学生向けに「インターンシップ」「大学出張講座」などへ携わってきました。そこで今後は、社会に出る前の大学生を対象に、自分がこれまで実務で経験してきたデジタルマーケティングや広告メディアに関する知識やスキルを伝えていこうと思い、今に至ります。現在は、主に経営学科で開設する、商業・マーケティング分野のICT関連の講義や広告、流通ビジネスに関連する講義を中心に担当しています。

担当教員

総合政策学部 経営学科
ICTマーケティングクラス
准教授 奥野 辰広

ITベンチャー、広告メディア、BPOベンダーにて、デジタルマーケティング、新規事業開発、人材戦略・採用支援、経営計画策定等のビジネス実務に従事。実務家教員として、2023年4月より常磐大学総合政策学部准教授に就任。デジタル人材育成学会副会長（専務理事）、デジタル庁デジタル推進委員を兼任。



新商品開発「イチゴビールプロジェクト」始動!!

ICTマーケティングプロジェクトに参画する有限会社ぬりやの稲野辺久智専務取締役から、Webサイト制作を中心とするWebプロモーションに加えて、ぬりやの新規事業であるMitoBrewing大工町醸造所の新商品開発を、産学協同で実施できないかとの相談があり、立ち上がったのが「イチゴビールプロジェクト」です。ぬりやは、明治末創業の老舗鰻料亭で、水戸の中でも代表的な地域企業のひとつですが、地域資源（特産品）を活用したブランドづくりを行い、顧客との新たな関係構築を図ることが必要とされていました。このような課題背景があり、消費者ニーズに対応した新商品開発と6次産業化を産学協同で取り組むこととなりました。イチゴビールプロジェクトでは、原材料となる茨城県オリジナルのいちご品種「いばらキッス」の収穫、ビール醸造（ビール仕込み）、京成百貨店でビールの試験販売および商品名のアンケート調査、商品ラベル制作、クラウドファンディングでの販売など、商品開発全てのプロセスに学生たちが実際に取り組みました。また販売スケジュールから逆算して、新商品開発の各工程とWebサイトの制作・運用（鰻料亭サイト、クラフトビールサイト）を同時進行で行い、スケジュールに遅延がないようプロジェクトマネジメントに取り組みました。学生たちは、夏休み期間中も補習に出席し、新商品開発に関する企画提案やWebサイト制作に取り組みました。

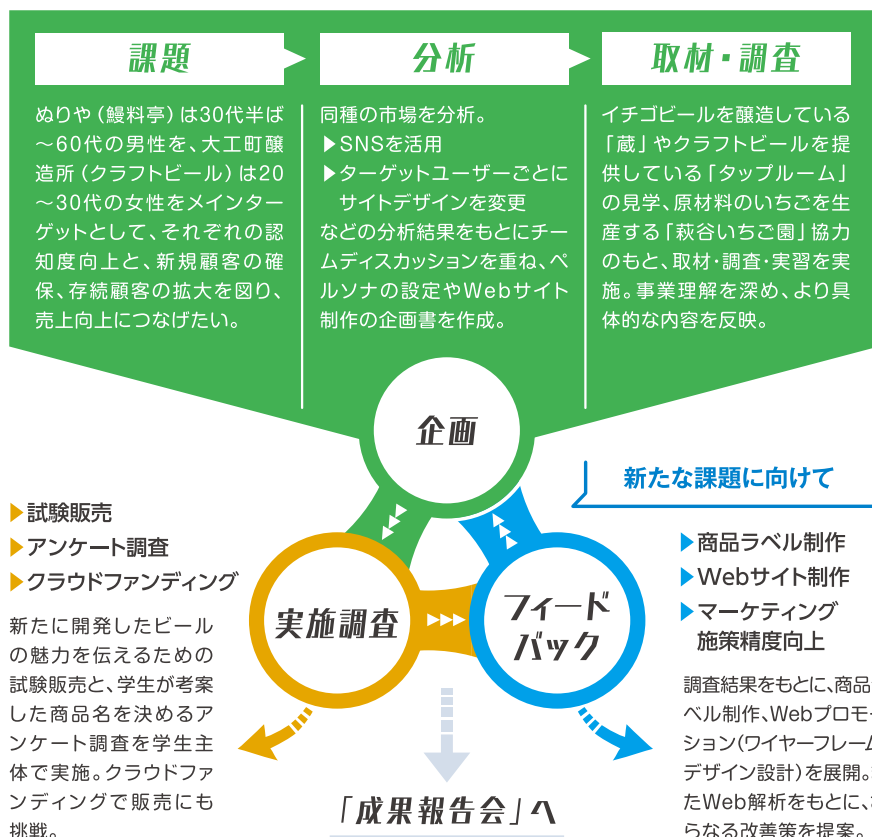
「ICTマーケティングプロジェクト」では 企業課題を解決するために 様々な対応施策を考えます

本プロジェクトの進捗管理



プロジェクトを通して 身につけられるスキル

デジタルビジネスの
実務で必要とされる
「分析」「取材」「企画提案」
「制作・運用」
の各工程を実践。



分析スキル

マーケティング分析やディスカッションを重ね、問題改善へのアプローチやデータを分析するスキルを培います。

取材スキル

企業への取材・調査・実習を通して、取材撮影スキルおよびインタビュースキルを培います。

企画提案スキル

取材や市場調査をもとに、商品プロデュースや課題解決への糸口を見つけ、企画提案するスキルを培います。

制作・運用スキル

企画提案をもとに、Webサイト制作・商品ラベル制作を実践。Webサイト構築と運用スキル、Webデータ解析スキルを培います。

プロジェクトを実践して思うこと



私たちはデジタルビジネスの実践で必要とされる「分析」「取材」「企画提案」「制作・運用」に関する各工程を実践することで、ICTマーケティングの専門的な知識とスキルを学ぶことができました。取材では、事前にチーム内でディスカッションを重ねて、企画内容や実際のユーザー属性を決め、ペルソナ設計や顧客ターゲットの絞り込み、マーケティング分析（各フェーズ別の課題、ペルソナ行動心理、対応施策）を行いました。また企画書にまとめ、その設定課題について実現できるか、作業工数に問題がないかなどの確認と設定ターゲットや課題が正しいかの検証を幾度も行い、Webサイト制作やマーケティング施策の精度を上げていきました。チームが一体となって取り組めた貴重な体験となりました。

総合政策学部 経営学科 めりやチーム

糸山優輝 浜田陽向 関莉緒那 竹林姫奈 鷹箸弘太

ICT マーケティング を生かす職種

地域で活躍するデジタル人材として、主に4つの職種を目指すことができます。1つ目は、企業のマーケティング部門のマネジャーや商品企画、広告販売促進、店舗運営などに関する職種です。2つ目は、広告代理店やPR会社など企業の代わりにプロモーションを行う職種です。3つ目は、専門家・コンサルタントです。具体的には、IT会社でのエンジニアやデータ分析を行うアナリスト、ITやマーケティング支援を行うコンサルタントなどの職種です。4つ目は、自治体職員や銀行員として、まちづくりや地域活性化に向けた中小企業の経営指導、DX（デジタルトランスフォーメーション）支援に関する職種などが進路先として考えられます。今後は、地域社会との連携を図りながら地域で活躍するデジタル人材がますます必要になります。

育てたい3つの資質・能力「ときわ力」



探究学習の流れ

特進選抜コース



特進コース



2学年特進コース文系の「笠間探究」

2学年の特進コース文系では、よりよい社会の創造に貢献する人材育成を目指す探究活動として、常磐大学との連携事業である大学特別講座と、笠間市と連携した問題解決型学習（PBL）を融合した地域探究を実践し、課題発見力や創造力、表現力の育成を目指します。

大学特別講座では、主に人文社会科学をテーマとした講義により地域社会が抱える課題の解決につながる視点や知識を習得します。また笠間市職員による出張講義やフィールドワークを通じ、地域の魅力や課題を発見、習得した知識を活用して具体的な政策を市長へ提言します。

生徒は、探究活動を通して知識を活用しながらアイデアを創出することの充実感と、地域交流を通して自己有用感を高めていきます。

探究学習で高める「コンピテンシー」



「梅染め」の探究活動

5年目を迎える梅染めの探究活動は、偕楽園で剪定された後に通常は焼却される梅の枝を有効活用し、地域の魅力を創造することを目的としています。持続可能な取り組みとして、地域の資源を最大限活用するこのプロジェクトは、水戸ユネスコ協会の林和男先生の指導のもとで始まり、毎年2・3年次の生徒たちが週2時間の探究学習で取り組んできました。これまで、水戸黄門まつりにて梅染め和紙を用いたうちわ作りのワークショップ、水戸まちなかフェスへの出展、偕楽園梅染め体験講座のアドバイザーを務めるなど、地域交流の場で多くの生徒が活躍しています。



大学

地域連携シンポジウムを開催

9月21日、2024年度常磐大学・常磐短期大学地域連携シンポジウムを開催しました。

テーマは「地域とともに育つときわの学生：時代の声にこたえ・学び・成長する」。

シンポジウム第1部の地域連携活動実践報告では、これまでの本学と地域の自治体・企業・市民団体との連携・協働の事例について報告がなされました。

シンポジウム第2部の意見交換では、第1部の登壇者から報告された事例について学生、卒業生、教員のそれぞれの立場から取り組みの成果や課題を参加者と共有するとともに、今後、本学に求められる役割と新たな連携・協働の可能性について意見交換が行われ、それぞれの考えを共有しながら持続可能な地

域連携活動を探りました。

常磐大学地域連携研究支援センターでは、今後も定期的にシンポジウムを開催し、大学と地域の連携・協働の取り組みについて情報共有の場を提供していきます。また、シンポジウムを大学、自治体、企業の関係者と地域の方々が一堂に会する交流とネットワーキングの機会として、地域課題の解決や新たな連携・協働のアイデア創出の場として生かし、新しい価値の創造を目指します。



大学

「2024年ときわ祭」を開催 個性が“TOKI”放たれた大盛り上がりの2日間

10月19日・20日、「2024年ときわ祭」を開催しました。今回のテーマは「Plus Ultra 一個性を“TOKI”放てー」。これまでのときわ祭を発展させ、革新的なときわ祭にしたいという思いが込められています。

野外ステージでは、ダンスや音楽ライブ、お笑いライブなどで盛り上がり、屋外企画では、各種サークルや団体などの模擬店で賑わいました。焼きそばなどの定番グルメから、チュロスやじゃじゃ麺など、食欲をそそる香りが漂う中、来場者たちは食べ歩きを楽しんでいました。また、智学館中等教育学校の生徒たちが企画したワークショップでは、ものづくり体験を提供し、子どもから大人まで楽しめる場となっていました。

屋内企画では、各ゼミナールが展示や企画を行い、ゲーム感

覚で参加できる展示や体験型企画など、学生たちの創意工夫が光る内容で来場者を楽しませました。

「個性を“TOKI”放つ」瞬間が随所に見られた今回のときわ祭。多くの来場者が訪れ、10月下旬とは思えない暖かい陽気に恵まれ、キャンパス全体が笑顔と活気に満ちた2日間でした。



大学

韓国・大邱カトリック大学日本語日本文学科の短期日本研修を受け入れ

常磐大学が学術連携協定を締結する韓国・大邱カトリック大学日本語日本文学科から、中島忍助教授の引率のもと、短期日本研修プログラムに参加する学生9人を本学に迎え、7月1日から8日まで、韓国語や日本語の授業交流、日本文化体験、水戸市近郊企業訪問等を含む8日間のプログラムを提供しました。

研修を締めくくる閉会式では、大邱カトリック大学の学生に修了証と本学の記念グッズが手渡され、一人ひとりから感謝の言葉や感想が述べられました。研修中の思い出がよみがえって、目頭を熱くする学生の姿も見られました。

短い日程ながら、大邱カトリック大学の学生と本学学生が十分に絆を深める貴重な機会となりました。



学び、体験し、日々成長している学生・生徒・園児たち。
そんな彼らの活躍の場は、校内にとどまらずさらなる広がりを見せています。
ここでは各学校の主な活動や取り組み、実績などを紹介します。

短大

「手作りおもちゃコンテスト2024」でわくわくさん賞を受賞

株式会社京進のHOPPA（全国に95園の保育施設を展開）主催「手作りおもちゃコンテスト2024」において、幼児教育保育学科2年生の「課題研究」（大内ゼミ）では、2チームが最終選考に残り、そのうちの1チームが「わくわくさん賞」を受賞しました。全国から51校167チームの応募がある中で、最終選考には49チームが選出され、NHK Eテレ「つくってあそび」に出演していたわくわくさんご自身に、手に取って選考していただきました。11月12日にはHOPPA取締役社長の水口様が常磐短期大学に来学され、授賞式が執り行われました。

課題は2歳児対象のおもちゃ。2歳児は指先が使えるようになり、ふり遊び・まね遊びを楽しむ時期であることから、大人とのコミュニケーションを楽しみながら、それらの発達を促すことに

加え、子どもたちに自分の食べているご飯がどこから来ているのか興味を持ってもらいたいという願いから制作しました。わくわくさんからは、柔らかさ、色使い、デザインに心惹かれ、制作者の心の優しさまでも感じられる作品であること、紙バックという材料を使っていることを高く評価していただきました。



高校

科学の甲子園茨城県大会に出場

11月16日、つくば国際会議場で開催された第14回科学の甲子園茨城県大会に生徒有志で結成した1チーム（6人）が出場しました。この大会は、科学に興味と関心を持つ高校1・2年生が対象で、科学に対する知識や技能を競い合います。学校での学びをさらに発展させた工夫あふれる問題や、教科の枠を超えた複合問題が出題され、筆記競技（60分）と実技競技（制作40分、競技60分）の計160分にわたってチームで協力し合いながら問題に取り組みました。



高校

芸術鑑賞会

本校の芸術鑑賞会は、音楽・演劇・古典芸能を3年周期で実施しています。2024年は演劇の年度、東京芸術座による「未来」を観劇しました。10月29日、2023年に完成して間もない水戸市民会館を会場に実施しました。劇の内容もさることながら、閉会後に劇団員の方が本校生と座談会を開いてくださり、演劇に興味のある生徒たちは団員の方と交流を深めることができました。



高校

実り多き修学旅行

12月には本校のビッグイベントである2年生の修学旅行を実施しました。戦争の悲惨な歴史から平和の尊さとありがたさについて考え、自然体験や文化体験を通して沖縄ならではの経験を得ることができ、クラスメートとの絆が深まる実りの多い3泊4日の修学旅行となりました。



高校

豊富な留学プログラム

8月にカナダのハリー・エインリー高校で10日間の語学研修を実施し、12人の生徒が参加しました。また、9月から11月までカナダ・ブリティッシュコロンビア州のMEIスクールに通学する3カ月語学留学に3人の生徒が、10月に行われたカンボジアでの異文化理解研修には7人の生徒が参加しました。現在は、カナダとニュージーランドに6人が留学中です。本校には目的に応じて多くの留学や海外研修プログラムが用意されており、豊かな国際教育を実践しています。さらに、2024年秋の時点でスウェーデン、イタリア、カナダからの3人の留学生が本校で生徒たちとともに学んでいます。



智学館

初の林間学校で脱日常

7月18日・19日、全校生徒による初の林間学校を行いました。初日は幼い頃のワクワク感を思い出しながら、那珂川で全力のカヤックと川遊び。飯盒炊爨では火起こしに苦戦したものの、みんなで食べるカレーは最高の味でした。そして花火、キャンプファイヤーと盛りだくさんのイベントを満喫した後は、貸し切りのハウスでエアコンのない夏の一夜を体験しました。2日目は生徒会企画のゲームを通して、全校生徒の絆を深めました。日常から脱出し、不自由を楽しみ、自然に親しみ、多くの「学び」を得た1泊2日となりました。



智学館

智学館カップを開催

9月21日に実施した第12回智学館カップは8年ぶりの屋外開催となりました。小吹グラウンドには、大縄跳び・障害物競走・全員リレーなどの競技に全力で挑む生徒たちへの声援が響き渡りました。会場を体育館に移した午後バスケットボールや逆転玉入れなど、赤団・青団選手たちによる戦いは続き、熱い歓声が止むことはありませんでした。閉会式は、生徒、教職員、そして応援に駆けつけた大勢の保護者の晴れやかな笑顔に満ち溢れたものとなりました。



智学館

高大連携プログラムスタート! ～常磐大学留学生との交流～

高大連携プログラム「Multicultural English Connection (MEC)」の一環で韓国、中国、タイ、モンゴル、カナダからの常磐大学留学生7人が、智学館の授業に10月から月2回参加しました。互いの国や文化を英語で紹介したり、バドミントンや書道を一緒に楽しんだりしました。さらに、留学生が自国の言葉や文化を教える場も設けられました。日本語や英語、各国の言葉が飛び交う中、留学生と智学館生の双方にとって、多文化理解を深める貴重な機会となりました。



幼稚園

収穫祭で実りを満喫

4月に田植えをした稲が9月に実り、無事に稲刈りを迎えました。脱穀、粃摺りを自分たちの手でを行い、一粒一粒食べられるようにするまでには、こんなにも多くの工程があるのかと驚きながらの作業となりました。収穫祭では、園庭で薪をくべて釜で米を炊き、おにぎりにして食べました。また、畑で採れたサツマイモを焼き芋にして味わいました。自分で作ったおにぎりの美味しさは格別で、子どもたちの「食べ物」に対する思いにも変化が見られ、食べ物を大切にする気持ちが芽生える行事となりました。



幼稚園

運動会を開催

10月6日、大学グラウンドで運動会を行いました。前日の雨で、グラウンドの状態が心配される中、当日は晴天に恵まれグラウンドいっぱい伸び伸びと実施することができました。全学年の入場行進でスタートし、年少・年中組のダンスやかけっこがほほえましく進行、年長組のリレーでは「最後まで駆け抜けろ! Don't give up!!」の合言葉で一人ひとりが精一杯最後まで走り切りました。会場にいた園児、保護者、教職員、全員が一体となって応援し、頑張っている園児たちの姿に感動のフィナーレとなりました。



幼稚園

中学生職場体験

11月28日・29日、戸市立見川中学校2年生の生徒10人が職場体験に来園しました。園庭で園児と一緒に遊んだり生活の様子を観察したりしながら子どもたちと触れ合い、園児や保護者に対する教師の関わり方を近くで感じるなど、幼児教育の現場を体験しました。自分の将来を考える選択肢の中に、幼稚園教諭として幼児と関わる仕事を考えている生徒もあり、しっかりと自分の将来を見据えている姿に感心させられました。「子どもたちが可愛くて楽しかったです!」と笑顔で答えてくれた生徒たちに、園児も教師もうれしい気持ちになった2日間となりました。



行動の背景がわかればもっと面白い！ 心理学の教科書

人間科学部 教授
申 紅仙

申 紅仙(監)
2024年8月
ナツメ社



心理学の基本的な概念や理論を、イラストを多用し分かりやすく解説しました。イラストを眺めるだけでも楽しめるように工夫されており、心理学を初めて学ぶ学生だけでなく、教養や知識を効率よく身につけたいビジネスパーソンにも適した一冊です。

日本の家族のすがた 語りから読み解く暮らしと生き方

人間科学部 教授
水嶋 陽子

木戸 功、
松木 洋人 他(編著)
2024年11月
青弓社



全国調査で行った幅広い世代へのインタビューから、家族生活のリアルに迫り、家族を多角的に捉えた本です。12章「[仕事を辞めること]の語り」と夫婦関係」について執筆を担当しました。

「最近の大学生」の社会学 2020年代学生文化としての 再帰的ライフスタイル

人間科学部 准教授
二方 龍紀

小川 豊武、
妹尾 麻美 他(編著)
岩田 考、
二方 龍紀 他(著)
2024年10月
ナカニシヤ出版



2020年に全国19大学で実施した大学生調査のデータを分析した論文集です。第2部「メディア・文化」の中で大学生のSNS利用と現代社会の性質の関係について執筆を担当しました。

エビデンスに基づく 周産期・母性看護ケア関連図

看護学部 教授
村井 文江

細坂 泰子(編)
2024年9月
中央法規出版

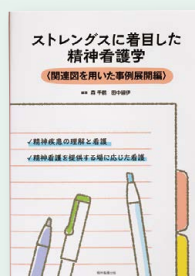


疾患や状態のメカニズムに焦点をあてて看護ケアの関連図を示しています。臨床・実習で、エビデンスを認識して看護ケアを提供するうえで役立つものとなっています。

ストレングスに着目した精神看護学 (関連図を用いた事例展開編)

看護学部 准教授
福田 大祐

森 千鶴、田中 留伊
(編著)
2024年8月
精神看護出版



最新の精神医学の知見に基づいて認知症を理解するとともに、ケアの根拠を明確にし対象者の強み(ストレングス)を生かした看護援助の考え方について解説しました。

ポーランド・バルト史 上

幼児教育保育学科 教授
安井 教浩

伊東 孝之、井内 敏夫
(編著)
2024年7月
山川出版社



1998年に刊行された『世界各国史 ポーランド・ウクライナ・バルト史』のうち、独立して再刊された『ウクライナ史』を除いた改訂新版です。第5章「近代民族の成立」について執筆を担当しました。(下巻有り)

ポーランドの歴史を知るための56章 【第2版】

幼児教育保育学科 教授
安井 教浩

渡辺 克義、
白木 太一 他(編著)
2024年8月
明石書店



中世から現代にいたるポーランドの歴史を様々な観点から紹介した書物です。第23章「両大戦間期ポーランドの政治」について執筆を担当しました。



食の大切さを次世代に継承

茨城県民の皆様の健康を維持増進していきたい

地場産物が大変豊富で、魅力にあふれる茨城県。常磐大学で管理栄養士の観点から食育に深く関わり、食の大切さを次世代に継承したいと強く思いました。大学では、充実した施設の中、専門の先生方から直に講義を受けて実践的スキルを学ぶことができ、私にはとてもよい刺激となりました。特に栄養教諭履修課程の授業は、学びの幅が広がり、今の私の礎を築けたと思います。在学中は複数の料理コンテストに応募し、「茨城県栄養士会主催・ヘルシーメニューコンクール」で優秀賞、「環境保全茨城県民会議主催・いばらき食べきりレシピコンテスト」で佳作を受賞しました。これらは大変印象深く、貴重な経験で、自分の自信につながりました。

これからは県の行政栄養士として、県民の健康をサポートしつつ、現職の方々とソーシャル・キャピタルを高め、私も常に学ぶ姿勢を忘れず、生活習慣病予防を推進したいです。

進路

茨城県庁職員
(管理栄養士)



さかた はるか
坂田 遥香

大学

常磐大学
人間科学部 健康栄養学科 4年



看護師として働く母の背中がきっかけ

新しい命とその家族を支える助産師になりたい

医療機関で働く母の姿に憧れて、看護師を目指すようになりました。将来は、助産師資格を取得し、妊産婦や出産後の母子の力になりたいと思っています。

智学館は先生との距離が近く、気軽に何でも相談できました。進路に関しても親身になって話を聞いてくださり、将来の目標に対する明確なビジョンが持てました。特に印象に残っている学校行事は「激論会」です。年次の枠を超えた話し合いを通して、多様な意見や価値観に触れながら、コミュニケーション力を高めることができました。また、6年間続けた合唱部では、全国大会への出場を果たし、コロナ禍で中止が続いていた演奏会を4年ぶりに開催することもできました。

大学では、臨床実習を通して実践的なスキルを身につけ、患者に寄り添って細やかなサポートができる看護師になれるよう、しっかりと学びたいと思います。

進路

群馬パース大学
看護学部 看護学科



つく い つき な
津久井 月菜

智学館

智学館中等教育学校 6年次



インタビュー

夢を叶えるために常磐に来た学生・生徒の皆さん。
一足先に就職先、進学先を決めた人たち。
さあ、これからどんな道に進むのでしょうか。

進路

社会福祉法人
オークス・ウェルフェア
(保育士)



すずき こはる
鈴木 瑚花

常磐短期大学
幼児教育保育学科 2年

短大

「明日も保育園楽しみ」と 思われる保育士になりたい

昔から子どもが大好きで、保育士になることを夢見ていました。常磐短期大学では短期間で多くの実習があり、子どもたちと関わる経験を積むことができました。園では、一人ひとりの発達や成長に個人差があること、個性があることなど、様々な子どもがいることを深く学べました。施設では、家庭に事情のある子、支援の必要な子など、多様な環境にある子どもとの関わり方を理解できました。就職活動では、このような実習経験を具体的に伝え、私の目指す保育活動について企業にアピールしました。また就職活動期間中は、キャリア支援センターに毎日通い、面接練習や履歴書の書き方など手厚い支援を受けました。

保育士になれることを本当にうれしく思います。子どもたちを大切に、子ども目線で考え、一緒に楽しみ、いつも笑顔で子どもたちが安心できる存在でいたいです。

子どもたちが安心して
いる存在に

進路

慶應義塾大学 文学部



いなば ゆうき
稲葉 優生

常磐大学高等学校 3年

高校

大学でも文武両道を目指して 取り組みたい

高校1年の時に出場した国体での優勝経験を生かして、進学先はバスケットボールに力を入れ、勉強も深めることができる慶應義塾大学を選びました。大学では幅広い分野を学ぶことができる社会学を専攻しようと考えています。将来は実業団プレイヤーを目指しています。常磐で印象深いのは英会話の授業で、ネイティブの先生に親しくしていただき、フランクな会話を通して英語に親しむことができました。慶應義塾大学の入試問題には和文英訳が多く出題されるので、高校で学んだことが役に立ちました。大学入試の時期には、資料の作成や面接練習、小論文などを多くの先生にご指導いただき、無事に入試を突破することができました。

私は、スポーツをプレーしたり研究したりして、将来もずっとスポーツに携わりたいという希望を強く持ち続けています。そういった将来のビジョンを持つことで、困難に負けず目標に向かって進み続けることができるのだと思っています。

進路には明確な
ビジョンが大切

Tokiwa Information



常磐の魅力がYouTubeでご覧いただけます。トポス メイキング動画「TOPOS MOVIE」を配信中!



卒業目前インタビュー
(大学・短期大学・高校・智学館)



特集企画
ICTマーケティングプロジェクト
(大学)



寄付者ご芳名 (敬称略・五十音順) ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。[2024年7月~12月受付分]

諸澤幸雄奨学金制度への募金

学校法人内の各学校に在籍する学生・生徒で、経済的理由により学業の継続が困難な者に対して奨学金を給付し公平な修学機会を与え、もって有為な人材の育成に資することを目的とした給付型奨学金制度です。

法 人	
500,000円	株式会社 西山工務店
芳名のみ公表	株式会社 坂場商店
団 体	
80,000円	ときわ祭もりあげ隊
個 人	
120,000円	齊藤 泰嘉*
50,000円	横須賀 敬章
芳名のみ公表	安藤 昌俊*
	石田 脩平*
	江原 麻子*
	小宅 祐輔*
	関 いづみ*
	根本 知計*
	渡辺 風沙*

常磐大学高等学校 創立100周年募金

常磐大学高等学校の教育活動ならびに学習支援をさらに拡充させ、生徒の伸びやかな成長を図るための環境整備事業推進募金です。

個 人	
60,000円	大槻 行徳*
10,000円	小林 幸代
50,000円	横須賀 敬章
芳名のみ公表	岩間 健一郎*
	内田 和毅*
	江原 昌義*
	川崎 秀典*
	横山 正和*

地域社会との連携事業に対する支援

個 人	
芳名のみ公表	村中 均

教育および学術研究の 充実・発展のための募金

法 人	
100,000円	一誠商事 株式会社
芳名のみ公表	東邦厨房 株式会社
	株式会社 マルトグループホールディングス
団 体	
50,000円	TOKIWA おんぶの会

動物心理学実験棟の教育研究環境 整備に対する支援

個 人	
10,000円	佐竹 希
芳名のみ公表	寺村 堅志
	森山 哲美
	渡辺 めぐみ

●受付期間中に複数回お申し込みくださいました方は、芳名に*を付しています。

税制上の優遇措置

寄付募集について、文部科学省から特定公益増進法人の証明書交付を受けております。本学にご寄付いただきました場合は、税制上の優遇措置を受けることができます。

寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

<https://www.tokiwa.ac.jp/fund/>

寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

[お電話で] 029-232-2551 [メールで] kifu@tokiwa.ac.jp

TOPOS vol.99 February 2025

学校法人常磐大学 広報誌【トポス】 2025年2月発行

学校法人常磐大学 総務課広報係

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1 TEL.029-232-2511(代)

皆様からの
ご意見大募集!

①印象に残った記事とその理由など ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆様からのご意見・感想をメールまたははがきでお寄せください。

※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

[メール送信先] kikaku@tokiwa.ac.jp

[はがき郵送先] 〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1 学校法人常磐大学 総務課広報係

お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



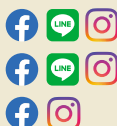
TOKIWA

<https://www.tokiwa.ac.jp/>

常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学



常磐大学高等学校
智学館中等教育学校
常磐大学幼稚園



常磐大学は、令和5年度(一財)大学・短期大学基準協会による大学認証評価の結果、適格と認定されました。



常磐短期大学は令和2年度(一財)大学・短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定されました。